

## 「2017年インドネシア大学スプリングスクール参加報告書」

京都大学文学研究科修士2年 光村麻衣子

今回のプログラムで得た学習成果は大きく分けて語学と文化・歴史の学習があります。本プログラムは2017年2月19日から3月5日までの2週間の短期研修でした。平日はデポック市にある国立インドネシア大学にて午前1コマ100分のインドネシア語の授業を一日2コマ履修し、午後には文化体験の授業や、インドネシア大学の授業に参加した後、毎日2時間ほど共同発表の準備を行いました。インドネシア語はこれまで未学習でしたが、本プログラム参加前の事前講習を踏まえ、毎日の語学の授業を受講することで、基本的な日常会話程度の語学力を身につけることができました。特に私はインドネシア語の巻き舌の "r" の発音が苦手だったのですが、本プログラム中の猛特訓により、習得することができました。また、英語については、授業やペアワークでインドネシア語が通じないときに英語を解することが時々あり、単語の意味を英語で話すことがあったので、英語の会話力も上達したように思います。

文化体験の授業では、インドネシアの伝統音楽であるガムラン、アレンバの体験、伝統的な染物であるバティックの体験を行いました。その他、日本語の談話分析の授業や、日本のドラマ・漫画に関する授業、一般教養としての日本語の授業に参加しました。土曜日にはタマン・ミニという施設でインドネシアの建築や歴史を学び、日曜日にはジャカルタ市内の観光を行いました。授業や普段の生活を通して自分で見聞きし、体験することでインドネシアの歴史・文化について、学ぶことができました。

さらに、授業以外の生活から学んだことも多くあります。これまで体験したことのない地域、気候、文化の国で、またこれまでで最も長い期間海外に滞在したことで、授業以外の普段の生活から多くのことを感じ、学びました。インドネシアではあまり英語が通じないことから、言葉が通じない不便さを実感するとともに、何とかして少ない語彙で意思疎通を図ろうと日々奮闘し、必然的に短期間で日常会話を身につけることができました。また、生活習慣など、たくさんの違いを普段の生活から知ることができました。一番印象に残ったのは、宗教の違いです。インドネシアはイスラム教を信仰する人が多く、生活リズムや服装、食事など多くの違いがあります。また、人によって決まりの解釈や習慣が違います。これまで当たり前だと思っていたことを見直し、それぞれの人の考え方や習慣を尊重し、気遣うことの大切さを学びました。また、日本から見たインドネシアについてだけでなく、インドネシアから見た日本についても少し知ることができました。

今回の研修を通して、今後働いていくうえで必要な国際的な感覚や問題解決能力を身につけられ、より国際的に活躍したいと感じるようになりました。宗教や労働の仕方、進路の違いから自分の固定観念を疑い、相手を理解しようとする意識は今後、海外だけでなく国内で働いていくうえでも必ず役立つものであると感じています。また、ペアワークを行うなかで、言語の壁、考え方の違いを乗り越えて一つのアイデアにまとめ、そして外国語話者の方にも伝わりやすい発表を作り上げるというプロセスの中からコミュニケーション能力・問題解決能力が向上しました。また、私は4月から化粧品会社の研究職で働くことが決まっていますが、今回インドネシアにおける美的感覚やサービスに対する考え方の違いを強く感じ、興味を持ちました。国内で研究するだけでなく、東南アジア諸国におけるより良い商品展開について今後研究したいと考えています。

今回のプログラムは2週間という短い期間でありましたが、語学・文化をはじめ、書ききれないほどに多くのことを学ぶことができました。しかし、そのどれもが、あくまできっかけをいただいたというものであり、これからどのように学び続ける努力をするか、どのように生かすかはすべて私自身にかかっていると感じます。就職後もこの研修から得たことを無駄にしないよう、努力を続けていきたいです。最後に、このような機会をいただいたことに、心より感謝いたします。